

1 教育活動の基本方針

教育目標	本校は、心身の発達に遅れや障害のある児童生徒に対して、その実態に即した指導を行うことにより、一人一人の全面的な発達を促し、その子らしく精一杯生きる力を育てることをめざす		
スクールミッション・ポリシー	「附属特支２０３５」 ①異彩を放つ異才の育成（その子らしく）→ 個性尊重・開花 ②先導的実験的教育研究（附属校らしく）→ 時代の要請・先取 ③社会に開かれた教育課程（形成者らしく）→ 認知され選択される		
学部の教育方針	小学部	中学部	高等部
	様々な活動を通して感性や情緒を育みながら「楽しい」「おもしろい」などの気持ちを実感し、他者に伝える力の基盤となる自主性や信頼感を育成する。 【自立（不易）】	自らが知りたいことに対し、自らが調べ、自らが考え、自分なりの答えを出す力（＝探究心）の育成を図る。特に、自ら調べる力においては情報技術の活用や本・資料を活用し、情報を「読み取ること」、他者との会話から情報を「聞き取ること」を大切に育成する。 【探究（時代の要請）】	学習や現場実習等での経験をもとに自己の良さや可能性に気付き、自己理解や職業理解を深める中で、生徒自身が自己実現を図ろうとする姿（自己選択・自己決定する姿）を目指す。 【進路（自己実現）】
教育を通して実現を図る児童生徒の姿	① 教師と一緒に、人や物に関心をもつ→②教師を介して個人がつながり合う→③自分で考えたり自分で決めたりする（「知りたい」「楽しみたい」を行動へ）→④他者を大切に思い、必要とし、互いに支え合う中で充実した生活・自己実現を求める		

2 学校研究の位置づけ

学校経営方針における位置づけ	令和３年度に文部科学省から研究開発学校の指定を受け、４年間にわたり研究開発に取り組んできた。国語科における小学校との接続の検証や自立と社会参加のための国語力の育成を目指す指導方法や教育課程についての提案を行った。昨年度は「読書活動推進」に係る指定を受け、生涯学習に対する一つのアプローチを行った。今年度は、これまでの研究成果をより深化・拡大することを目指す。また、児童生徒のキャリア発達を促すために、これまでも取り組んできた、地域の高齢者施設や保育園、地域住民との交流や協働活動は引き続き実施する。 ※令和８度は特に①国語力向上・読書活動推進指定を生かす、②教大協・全附連合同の特別支援教育に係る研究大会の主管校として企画・運営にあたることに重点を置く。
研究主題	Society5.0 を豊かに生きる資質・能力の育成 ～探究的な学びとそれを支える「情報」の活用能力の一体的育成～
研究目的	探究的な学びとそれを支える「情報」の活用能力の一体的な充実・向上に向けた教育内容・指導計画等の検討及び「統合的な理解・総合的な発揮」を生かした単元構想・実践を行い、その実践モデルの提案を行う。

※「情報」の活用能力：情報技術を適切かつ効果的に活用する力に加え、言語を用いて情報を理解し、文章や発話等により表現する力を含むものとして定義

3 学校研究を通して目指す姿と KGI（重要目標達成指標）

	小学部	中学部	高等部
目指す姿	新しい物・人・社会・自然とのかかわりを通して物事に気付き、「好き」「面白い」「やってみたい」などの気持ちを実感し、他者に伝えたり、自ら考えて行動したりする。	多様な活動や体験を通して、「なぜだろう」「どうすればよいだろう」という素朴な問い・課題をもち、他者との対話や協働から学んだことを生かして自分なりにできることを考え行動し、解決を通して自分なりの新たな意味・理解につなげる。	実社会や実生活上の課題に関心を示し、多様な他者との対話や協働によって得た気付きを生かして自分なりにできることを考え行動し、解決を通して思考や行動を豊かな人生（好き・得意の発見・強化）・より良い社会の実現につなげようとする。

KGI	・すべての児童生徒が好き・得意の発見・発揮を通して、自己にとっての意味、社会にとっての価値を生み出す。（児童生徒・保護者・教職員アンケート）
-----	--

4 各部の具体的取組

	授業構想にあたっての CSF（重要成功要因）		KPI（重要業績評価指標）
	「探究的な学び」の質的向上	「情報」の活用能力の育成	
小学部	○ 好き・得意の自覚を促す授業デザイン <u>児童の姿例</u> ・新しいものと出会ったときに注目することが増える。 ・発言・注目・活動を継続する場面・内容が増える。	○ 好き・得意の自覚を促すための情報技術の活用 <u>児童の姿例</u> ・活動の振り返り場面で、好き・面白い等の実感を伴った活動を中心に、自ら写真選ぶ、スライドショーを見ることが増える。	・全教師がエピソード記録を残すことを通して、児童の「好き」「得意」を精緻に把握し、語ることができる。 （教師アンケート・児童のいいところ紹介） ・「情報」の活用能力内容表の小学部①②に示された内容に対して、それぞれ「概ね満足できる」状況にある生徒が年度当初より増加する。（学習評価）
中学部	○ 本物との出会いから問いを生み出す授業デザイン <u>生徒の姿例</u> ・実物や実体験を通して生徒が問いや仮説を生み出し、他者と共有する。 ○ 他者との対話や繰り返し調べるプロセスを通して、学習に見通しがもてる・意味を感じられる授業デザイン <u>生徒の姿例</u> ・繰り返し調べるプロセスの中で、既習事項やこれまでの経験を手掛かりに課題に取り組み、新たな気付きや理解につなげる。 ・探究課題に対する理解を深め、学習したことを根拠として発言したり行動したりする。	○ 探究の充実を図るための情報技術の活用 <u>生徒の姿例</u> ・新たな考えや価値を創造していくためのツールとして、情報技術を活用する場面が増える（＝考えるための技法＆情報技術の活用）。	・探究の過程において、すべての生徒が自分なりの問いや仮説に基づいた発言・行動をしている。（学習記録・教師の行動観察記録） ・すべての生徒が課題解決の方向性を踏まえ、既習事項やこれまでの経験を手掛かりに課題に取り組み、思考や行動を洗練・更新している。（学習記録・教師の行動観察記録） ・「情報」の活用能力内容表の中学部に示された内容に対して、「概ね満足できる」状況にある生徒が年度当初より増加する。（学習評価）
高等部	○ 生徒が活動を見通せる・成長を自覚できる授業デザイン（自律的な探究の駆動） <u>生徒の姿例</u> ・生徒が目標・学習計画を立て学習を行い、それに対して自己省察・改善を行う。 ・対話を通して、自らの経験を省察する。 ○ 「我以外皆師」を実感できる学習機会の設定（他者の視点の獲得） <u>生徒の姿例</u> ・他者との対話や協働を通して、自分の思考や考えの変遷を追うためのポートフォリオを継続的に蓄積する。 ・本物と共に学ぶ機会が増える。	○ 自律的に探究を進めるための情報技術の活用 <u>生徒の姿例</u> ・生徒が目標・学習計画を立て学習に取り組み、それに対する自己省察・改善を継続的に行う。	・すべての生徒が課題解決の方向性を踏まえ自己の学びを振り返り（過程の自己評価）、思考や行動を洗練・更新している。（学習記録・教師の行動観察記録） ・すべての生徒が探究の過程において、他者の視点を含んだ表現・行動をしている。（成果物・教師の行動観察記録） ・「情報」の活用能力内容表の高等部①②に示された内容に対して、それぞれ「概ね満足できる」状況にある生徒が年度当初より増加する。（学習評価）

◇ 研究計画

	研究内容	1 年次	2 年次	3 年次
教育課程の構築	教育課程の編成のための理論的枠組みの検討			
	教育課程部会等における審議状況・方向性の確認	●		
	先行研究の成果・課題の確認	●		
	教育課程の編成のための基本事項の設定（全体計画の作成）			
	育成を目指す姿の設定	●		
	児童生徒・保護者・関係者のニーズの把握	●	○	○
	学校研究の成果指標の設定	●		
指導の充実	【教育課程の検討】指導計画の検討（学習指導要領の改訂を見据えて）			
	指導内容表の試案作成	●	○	
	単元デザインシートの様式作成	●	○	
	指導関連表の作成	○	●	○
	【授業改善の検討】効果的な単元計画・指導方法の検討			
	単元計画の作成	○	●	●
	実践	○	●	●
	評価と指導改善の検討（ポートフォリオ・パフォーマンス課題の検討会等）	○	●	●
	アンケートによる調査・考察			
	児童生徒アンケートの実施・考察	○	○	○
学校研究の評価	教職員アンケート(教職員の認識・態度)の実施・考察	○	○	○
	保護者アンケート(保護者の認識・意見)の実施・考察	○	○	○
	指標に基づく評価			
	教職員アンケート(児童生徒への効果)の実施・考察	○	○	○

●：重点実施 ○：実施

◇ 研究イメージ図

